

年間第5主日の説教

金 大烈 神父 2011年2月6日(日)

《心の連帯性・意識して生きる》

主の平和。(主の平和)

今日は、よく分かっているながらも、守りづらい事について皆様と話し合いたいと思います。

さあ、朝目が覚め、ベッドから立ち上がった途端に台所から鋭い声が聞こえます。

「今、何時！何時まで寝てるの！」妻からの声です。「今、起きたよ！そんなに大きな声を出す必要はないじゃないか」と言いながらトイレを済ませ、食卓に着きます。すると、また妻から色々な話が出ます。くたくたと続く話に頭が一杯になります。

その様な話を聞かされたご主人の一日が崩れてしまうのは当たり前です。その様子を見た3人の子供たちも崩れてしまいます。そして、その家の中で終われば良いのですが、そのご主人は出勤して、「おはようございます」と声をかける会社の部下にも良い顔を見せる事が出来ません。その部下は折角、挨拶をしたのに何故その様な渋い顔をしているのかと他の人にも甘い、優しい顔を見せる事が出来なくなります。事務所中がいやな雰囲気、いやな気持ちの中で一日を過ごしてしまいます。その3人の子供も学校に行って、やはり、やる気を失ってしまいます。面白く楽しい顔を見せる事が出来ません。分けも分からない気持ちの中で、他の人の気持ちも悪くしてしまいます。

逆の事を考えてみましょうか。ある学生がバスに乗っていて信号で止まります。止まっている窓の外に一つの光景が写ります。体が不自由なお婆さんが横断歩道で迷っています。それを見た何人かの人々が走りよって、そのお婆さんを支え横断歩道を渡ります。それを見た学生は何となく気持ちが良くなり、心が温かくなります。周りの人も同じように他の人に優しい心を見せるようになります。

私たちは、一回生まれ、一回死にます。その中で、大体、善に傾いているか、悪に傾いているか。二つに一つです。その善とか悪というものは面白い性質を持っています。それは“うつす力”です。これは神学的な用語では“善の連帯性”“悪の連帯性”と言います。連帯性の意味は何でしょうか。2人以上の者が繋がっているその性質を連帯性と言います。

さあ、今日、イエスは私たちに“何の者”だとおっしゃったのですか。“世の塩”もう一つは“光”です。その塩が塩気を失ったら何の役にも立たずに人間に踏みつけられる。それは当然の事かも知れませんが。光を放つろうソクを柀の下に置くものはいない。当たり前の事なのです。しかし、当たり前の事を分かりながら、私たちはある意味では、味を失っている塩の姿、そして柀の下にろうソクを置いている愚かな姿を見せながら生きているかも知れません。

今日の第一朗読(イザヤ 58・7-10)で、イザヤははっきりおっしゃっています。『飢えた人にあなたのパンを裂き与え、さまよう貧しい人を家に招き入れ、裸の人に会えば衣を着せ掛け、同胞の助けを惜しまないこと』。誰が見ても同意します。これは当たり前の事です。しかし、この様な姿をどれく

らい私たちは見せながら生きているかを考えてみたら、やはり反省することがあると思います。皆様、一度きりのこの人生、美しく綺麗に生きましょう。その為に私たちは素晴らしい賜物を持っています。それはみ言葉です。何が良いものか、何が美しいものか、何が汚いものか、皆分かっています。分かっていたら、美しく綺麗な方を選ぶよう考えましょう。少し負けた感じがしても「これは美しい事ではないか」という思いがしたら喜びましょう。人間の社会的な秤で計ろうとしたら、絶対、み言葉というものは負け犬です。あまり面白く無いものです。私たちの生き方の基本は福音であり、その福音の美しさを皆様は分かっています。出来るだけ良い気分を家族、隣人から始めうつしましょう。「私が笑顔を見せて一日を始めたら、その回りも笑顔で一日を始める」という簡単な事、皆分かっているながらも出来ない事をもう一度意識しながらやり直しましょう。そのような意味では意識という言葉が私たち信仰者にとって大切な言葉かも知れません。毎日、毎時間、毎瞬間、意識しようとする自分との戦いに負けないようにお願いいたします。

ありがとうございました。